国保

国民健康保険のしくみ

◆お互いの助け合いで

誰もが健康で幸福な生活を送りたいと願っています。しかし、いつどこで病気やケガをするか分かりません。そのため、日頃から保険税を出し合い、不時の出費に備えようとする仕組みが国民健康保険の制度です。

保険税を滞納し、未納期間が長期になると、医療費は全額自己負担となります。

◆国保の医療費について

勝山市国民健康保険の被保険者がかかった医療費は次のとおりです。医療機関で支払われる自己負担分は医療費の３割［未就学児は２割、70歳以上は１割（ただし、現役並み所得者は３割）］ですが、それ以外は勝山市の国保（国や県、市のお金と被保険者の保険税）で負担しています。また、医療費が高額になった場合、一定額以上の医療費は高額療養費として国保が負担することになります。

下記の表でも分かるように一人当たりにかかる医療費は年々増え続けており、このまま医療費が増加していくと、さらに保険税の負担をお願いしなければなりません。

多受診や頻回受診は控え、医療費の削減に努めましょう。

問　市民課（市役所1階）☎88-8102

勝山市国民健康保険の医療費等についての推移

年　度	一人当たりの医療費		県内17市町別順位：高額順	一人当たりの保険税年額		県内17市町別順位：高額順
		県平均			県平均	
H20	335,682円	299,495円	3位	66,590円	85,103円	16位
H21	335,439円	309,796円	6位	66,283円	84,565円	16位
H22	361,430円	323,672円	5位	77,135円	85,726円	13位
H23	371,255円	334,576円	3位	77,906円	87,728円	14位

年金

20歳になったら年金の手続きを

1、国民の義務

国内にお住まいの20歳以上60歳未満の方は国民年金に加入することが義務付けられています。20歳になったら、忘れずに国民年金加入の手続きをしましょう。

2、暮らしを支える３つの国民年金（基礎年金）

①**老齢基礎年金**…老後の生活を支えます。

②**障害基礎年金**…病気やけがで障害者となったときに生活を支えます。

③**遺族基礎年金**…加入者（夫または父）が亡くなったときに、子のある妻、または子の生活を支えます。

3、国民年金に加入する方

学生、自営業者、フリーターなど、第2号被保険者や第３号被保険者※ではない方が国民年金に加入します。加入の手続きは市役所で行います。

※第２号被保険者…厚生年金や共済年金の加入者
　第３号被保険者…第２号被保険者に扶養される配偶者

4、国民年金保険料について

①保険料はいくら？

平成24年度は月額14,980円です。

②保険料が払えない場合は？

保険料を未納のままにすると、万が一のときに障害年金を受け取れないなどの事態を招きます。

所得が少なく、保険料の納付が困難な場合は、若年者納付猶予や学生納付特例の申請を行うことによって、保険料の納付が猶予される場合があります。

③猶予期間等の年金はどうなるの？

若年者納付猶予や学生納付特例を受けた期間は、将来受ける年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

これらの期間の保険料は、10年以内であれば後から納付することができますので、追納制度をご利用ください。

問市民課（市役所1階）　☎88-8102
福井年金事務所　☎0776-23-4518

エコ協通信

勝山市内の地層めぐり

11月18日（日）にエコ協自然環境部会と恐竜のまち推進部会主催、勝山恐竜研究会共催で「勝山市内の地層めぐり」を行い、20人の参加がありました。

この地層めぐりの目的は、恐竜の化石が発掘されている手取層群より新しい時代の地層を観察することで、当日は福井市自然史博物館の吉澤康暢館長から説明を受けました。

まずは、北谷町杉山の手取層を見ながら、化石発掘時の話を聞きました。手取層は1億2千万年以上前の恐竜がいた時代の地層で、勝山を代表する地層とのことです。

続いて、たらたら山方面へ行きました。浄土寺川ダム近くの露頭では、柱が並んでいるように見える「柱状節理」の岩壁が見られました。なお、たらたら山の水が湧き出ている場所では、石の板が何枚も重なっているように見える「板状節理」が見られます。火山活動によってできた「柱状節理」や「板状節理」の岩壁は、法恩寺林道沿いなどでも見られる地形です。

次に、平泉寺の大矢谷白山神社の巨大岩塊の現場で解説を受けました。そこで、約23メートルもあるこの岩塊は、経ヶ岳火山の「噴火で飛んできた」のではなく、「岩屑なだれで滑ってきた」ということを知りました。この見解については、周辺にある他の岩塊もそうですが、岩の下が平らになっているため、「転がってきたのではなく滑ってきた」とのことです。

平泉寺一帯では、岩屑なだれで膨大な量の土砂が流れ込んでできた「流れ山」と呼ばれる小さな丘をいくつも見ることができます。

特に壁倉区では、高さ約50メートル、全長約1・2キロに渡る「流れ山」の断面を見学できました。九頭竜川が堆積物を大きく削り取ってできた壁で「樫ヶ壁」と呼ばれています。

この地層めぐりから、勝山は恐竜から数万年前の火山活動までの様々な時代の地層を見ることができる、まさに「ジオパーク」であると実感しました。

◆「鯖の熟れ鮨し」予約受付中

エコ協から企業組合化した「鯖の熟れ鮨し加工グループ」では、鯖の熟れ鮨しの予約販売を行っています。お問い合わせ・ご予約は、同グループ事務局の小林さんまで。

（☎080・1968・6931）

文章　エコ協広報委員　小玉理恵

問　未来創造課（市役所2階）（☎88・1115）

「勝山エコライフ」コラム

次々と成果が生まれた１年　さらに活動の質を高める

第14回　今年1年を振り返って

12月になりました。本当にあっという間にまた1年が過ぎようとしています。私にとっては、昨年にも増して一気に駆け抜けてきた1年でした。

特に強く印象に残っていることが3つあります。

①環境自治体会議かつやま会議

②赤とんぼと共に生きるプロジェクト

③学校での探求的学習の深化

①については、勝山に来てからすぐに準備に参加し、念入りに準備を重ねてきたものであったうえに、環境自治体会議史上初めての子どもたちから大人への発信が、大変素晴らしいものであったことも加わり、終わったときの達成感は相当なものでした。この会議の前後で、明らかに市民の皆さんの環境に対する視点や取り組みが、さらに良い方向へ向いたように思います。

②については、昨年3小学校の児童と始めた赤とんぼ調査が、今年は8小学校に増えたうえに、100人以上の市民調査員が加わり、本当に大規模な調査になったことが印象深いです。合計で8000個体以上の赤とんぼにマーキングを施し、夏に全国で2例目となる「平地から山地へのアキアカネの移動証明」がなされたことも特筆すべきことでした。

③については、学校の先生の理解とご協力によって、1年目を上回るような頻度で学校に入ることができたうえ、子どもたちの著しい成長を見ることもできました。子どもたちが探求的な学習を通して、勝山を知り、さらに良くするような提案をいくつもしてくれるようになりました。勝山を誇りに思い、本当の「社会で生きるための力」を身に付けた子どもたちが、勝山に増えつつあることをとてもうれしく思います。

これらの活動が充実し、成果が次々と生まれているからか、今年の私は、市外で勝山の活動について話す機会が増えました。まだ私が赴任してから2年足らずという時間ではありますが、勝山市がどんどん良い方向へ進んでいる、ということを勝山市民だけではなく、市外の方も多く認識されているようです。

これからさらに活動の質を高めると同時に、より多くの市民の皆さまが関心を持ってくださるように工夫することで、勝山を持続的に発展するまちにしていきたいと考えています。なおいっそうの皆さまのご協力を心よりお願いいたします。